

令和元年度

自己評価報告書

令和2年3月31日

学校法人 城西学園
城西放射線技術専門学校

- ・学則第4条に基づき自らの運営状況について自己点検・評価を実施した。
本校の教育活動の状況を自ら点検・評価し改善点を今後の教育活動に活かすことを目的とし、毎年実施するものとする。
- ・評価の結果、改善を要する項目は学校長の改善指示のもと担当者は速やかに対応し、改善状況を学校長へ報告するものとする。
- ・学校関係者評価委員会の人選は診療放射線分野、学校関係者、卒業生、地域住民の幅広い分野より人選し、学校長が任命している。
- ・評価は、「専修学校における学校評価ガイドライン」を基に4段階評価（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）とした。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

本校は現在地にて昭和 35 年 4 月 1 日付、城西レントゲン技術専門学校として発足

昭和 46 年 4 月 1 日付、城西放射線技術専門学校と名称変更

昭和 51 年 6 月 1 日付、私立専修学校として認可

診療放射線学科のみの夜間課程単科校であり、修業年限は 4 年である。診療放射線技師養成校として現代医療に求められる知識と技術の習得、信頼される人間性を養うということを教育の柱としている。

(1)城西学園校訓に「報恩感謝」を掲げており、恩や恵みに対して感謝の気持ちを持つことをいう。

これまでに受けた恩や恵みに感謝し病んだ人を思いやり医療人として恩に報いる、奉仕の精神を持つ医療人の育成教育を目標としている。

(2)本校の入学受入れ方針は以下の通りである。

- ・専門学校で学ぶことに対して確かな目的意識を持ち、学ぶ姿勢を大切にする方
- ・社会人としての自覚を持ち、職場や学校での言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている方
また、そのことについて学ぶ姿勢を持つ方
- ・心身ともに健康な方で、公私に関わらず、他者への思いやりを持っている方
- ・医療の現場はチーム医療が重要であり、コミュニケーション能力・連帯感を常に意識している方
- ・医療および医療技術に関心を持ち、適正があると考えている方

(3)職業教育を行う上では、病院等と連携した授業・実習が不可欠である。

学内における授業に加えて、学外での関連企業の工場見学、病院見学等を通じて専門性を養い、早い段階から医療現場における診療放射線技師の在り方を考える機会を与えている。

【課題・改善策】

- ・育成人材像は医療現場で求められるニーズに応じた育成をさせているため、本校教員が就職対象先や実習先に出向き、関連業界等の人材ニーズを把握するよう努めている。
- ・そのニーズを反映するべく学生へ周知される必要がある。
- ・入学時より国家試験に合格することが目標だが、医療現場で求められるニーズを実習先等から得て、本校の校訓でもある「報恩感謝」の精神に富んだ人材育成にも尽力している。
- ・また放射線技師の仕事を理解するため、学外で放射線関連施設や病院見学などを行い医療現場に携わっていない者にも放射線技師の在り方を考える機会を与えている。

	評価項目	評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められている	3
2	教育理念・教育目標・育成人材像は専門分野におけるニーズに伴っているか	2
3	理念達成に向けた教育活動を行っている	3
4	教育理念・教育目標が周知されている	3

基準2 学校運営

- (1)入学時から一貫して国家資格取得が教育目標。
- (2)原則、隔週実施される全員参加の職員会議では教職員が議題を発案・内容発表。会議後は議事録を作成し、次回会議の冒頭で前回の議事録の実施状況確認している。
- (3)城西学園理事会・評議委員会において本校は評議員・事務局として出席し、事業計画や運営方針などの決定事項を職員会議にて報告し、教職員全員へ周知徹底している。
- (4)期初に教務部、事務部の「業務分担表」を作成し、教務事務の担当および執行内容を具体的に示している。特に授業に関しては、カリキュラムに基づき「授業時間割表」を前期・後期作成し、教育活動への運営責任を明確にしている。
- (5)共有フォルダーを導入し、教職員間で情報共有を図っている。
- (6)就業規則、給与規定等がまとまった規程集を完備。教職員が閲覧できるよう配備している。
- (7)ホームページ学内専用サイトおよび学生専用携帯サイトを利用して学生への緊急連絡（気象状況の影響やストなどによる臨時休校）授業時間変更・就職情報等を発信し、その他学生への連絡事項等を掲示している。
- (8)学籍管理システム、会計管理システム等を適切に活用。効率化は十分図られている。
- (9)学校法人 城西学園（中学・高等学校、放射線技術専門学校）として教職員がクラウドシステム利用により情報の共有化を図っている。

【課題・改善策】

- ・共有フォルダーの削除や修正・更新の整理
- ・年度当初の予定から変更を与儀なくされるケースへの対応。
- ・ホームページ運営業者の変更。今後は変更箇所に対応かつ安全に情報提供する必要がある。

	評価項目	評価
1	目的に合った運営方針が策定されている	3
2	運営方針に沿った事業計画が策定されている	3
3	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され、有効に機能している	2
4	人事、給与に関する規定等は整備されている	3
5	組織整備など意思決定システムが整備されている	3
6	教育活動に関する情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っている	2

基準3 教育活動

目標の設定

- (1)本校のカリキュラムは国家試験合格を柱としたものであり、目標達成に向け十分な内容で体系的に構成されている。各科目の教育目標はシラバスに明記し、授業初日にも学生へ改めて周知している。
- (2)学生より専任教員・非常勤講師の授業評価のアンケートを無記名で実施し、教育の質を高めている。その結果をフィードバックし各教員には授業の改善点等の提出を依頼。学生の意見を考慮した授業改善に活用している。
- (3)成績評価・単位認定は放射線技師養成所指定校として重要な事項であり、明確な基準が必要である。その基準は「学生便覧」に記載しており、入学時のガイダンスにて周知している。
また、進級判定・卒業判定は、教員全員が参加による進級判定会議・卒業判定会議にて規定に基づき行われている。
- (4)本校にて編集した実力・模擬・総合試験問題集を教員、3・4年生に配布し、授業と自習に役立てている。
- (5)診療放射線学科のみの単科校である本校は、教員間のコミュニケーションも取れており、月2回行われる職員会議において上記協議会や各自参加した学会に関する情報等を共有している。
- (6)教員のセミナーや勉強会参加を奨励し、学生へ還元している。

【課題・改善策】

- ・成績不良者に向けて補講授業を実施しているが、仕事の都合などで強制的参加が難しい学生もいる。個人が時間と学力等を考慮してスケジュールを組む必要がある。最終目標は4年次の国家試験合格という事を1年次から事あるごとに伝え、合格するための長期計画を立てるよう指導している。
- ・GPA制度を本格的に導入し、指導に活かす。
- ・2022年に予定されている診療放射線技師養成所指定規則改正に向けて、カリキュラムの見直しを行う。

	評価項目	評価
1	理念・目的に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めている	3
2	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3
3	授業評価の実施・評価体制は整っているか	4
4	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確か	3
5	資格取得に関する指導体制は確立されているか	2
6	教員の資質、指導能力向上のための取組が行われているか	2

基準 4 学修成果

- (1)就職については、外部の専門業者による病院実習前及び就職活動前に医療スタッフとしての心構えや接遇のレベルアップのための研修会を行っている。社会人を経て入学した学生以外だけでなく、新卒で入学した学生の多くは昼間病院等にてアルバイトに従事しているため、既に社会人としての自覚やマナーを身に着けていると言われる事も多く、就職先からは即戦力として期待されている。
- (2)新たに設置した就職支援室では就職検索ソフトを導入したパソコンを3台設置。条件を入力し、該当施設の求人票を閲覧することが可能となった。
- (3)臨床実習施設との交流の中で情報交換しや同窓会ネットワークを活用し、就職希望者には決定まで就職支援を行っている。また、卒業後に離職した卒業生に対しても同様に支援をしている。

【改善策】

- ・学校、定員の増加に伴い、就職は厳しくなると予想される。成績優秀者は3年次の段階から就職先の希望を調査し、早急に対応する必要がある。
- ・卒業後の動向は十分把握しきれておらず、転居等で連絡を取るのが困難なケースも多い。
今後は卒業後の連絡先としてメール等での管理も検討する。
- ・退学者には様々な事情があり全てに対応することは難しいが、学力については補講などのサポート体制を強化している。

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られている	4
2	資格取得率の向上が図られている	2
3	退学率の軽減が図られている	3
4	卒業生・在校生の社会的な活動や評価を把握している	1

基準 5 学生支援

- (1)就職等進路についても、国家資格の取得が大前提であり、取得しない場合は内定が取り消されるため、就職責任者だけでなく担当教員と連携し、成績と就職活動について個別指導をしている。
- (2)夜間課程の学生は中途退学の要因には様々な事情がある。
退学者を増やさない対策として、担任が個人面談で現状の問題についてヒヤリングを行い、必要に応じて心理カウンセラーがカウンセリングにあたっている。担任教員と本人との面談以外にも状況により保護者・保証人へ連絡しているほか、職員会議において、学生の出席状況等を担任が報告し、職員を含めた全員で注意を払い学生の状況を共有している。
- (3)前・後期試験終了後、保証人宛に「定期試験成績表」（科目毎の点数と単位取得の可否）を送付し、学業の状況を確認してもらっている。
学生の勉強面においては授業で理解出来なかった学生は、担当教員に個別に質問できるほか、専用のメールアドレスにより自宅からでも問い合わせが可能である。
実力試験・総合試験の試験結果が振るわなかった4年生については、毎日一定時間試験問題の解説を行っている。

- (4)学生の健康管理については、健康診断を年に1回実施。要検査の学生は各自が病院で受診した結果を学校へ報告させている。体調の悪い学生の対応として保健室を常設。緊急を要する学生の事故、発病に備えて学内にAEDを設置している。
- (5)夜間対応をしている病院を教員へ周知させている。
- (6)施設内見学として理化学研究所(2年生)、放射線医学総合研究所(4年生)、病院見学(1年生)、解剖見学(希望者)また1泊2日の校外研修(1年生)が実施されている。
- (7)本校独自の奨学金制度はないが、公的支援制度を含めた経済的支援制度に関する相談に随時対応している。
- (8)同窓会の活動として年1回の同窓会誌(年会費納付者)、適时会報の発行、年1回総会・学会の実施があり、卒業生の情報交換・交流の場となっている。
- (9)本校入学生は現状社会人が50%強を占めており、勉強にブランクのある者も多く、入学前に課題図書を送付している。事前学習の課題としてオンラインで行う自主学習eラーニング(1年間利用可)を設け、学習計画表と共に事前学習・自己学習の場を提供している。
- (10)平成25年校舎設立時に学生用ロッカーを整備。昼間に働く学生にとって利便性が向上された。

【課題・改善策】

- ・社会人を経て入学した学生は特に、保証人が形だけとなっているケースが見られる。その際は保証人と学生との間で連絡が密でないため、学生に対しての問題解決を連携することが難しい。
 今後は入学前の案内に保証人と連携を取り学生生活をバックアップする旨を伝え、協力を仰ぐ。
- ・休学・退学者は前兆として欠席過多となり面談の日程調整だけでなく連絡が取りにくくなる傾向にある。全ての理由に対応することは困難だが、学習意欲の確認と学業継続を希望する学生に向けた環境づくりをサポートしていく必要がある。
- ・同窓会総会の参加者が固定化されており、今後は卒業後の新規入会者が同窓会総会に参加しやすいように学校としても協力していく。
 地元での就職を希望している学生の情報を当該地域の同窓会開催の際に説明し、地元病院の就職情報を入手し就職に活かしていく。学生も就職後は地方同窓会で活動していくことが期待される。
- ・入学時の学力、また課題の進捗状況には個人差がある。
 入学試験が8月から3月下旬までであるので、課題を実施する時間が足りない学生もいるが、eラーニングは利用期間が1年間のため、理数科目に不安がある学生には入学後も実施するよう促している。
- ・夜間課程のため、夜間対応をしている病院を教員に周知させる必要がある。

	評価項目	評価
1	進路指導に関する体制が整備されているか	3
2	学生生活に関して相談できる環境は整備されているか	3
3	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
4	学生の経済的な支援体制はあるか	2
5	保護者と適切に連携しているか	1
6	卒業生への支援体制はあるか	1
7	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3

基準 6 教育環境

本校の施設・設備

- (1)設備や清掃等のメンテナンスは定期的実施し、機器の管理補修も必要に応じて行われている。
- (2)病院実習は事前に受け入れ先とも十分な協議をし、適切に連携している。また、病院実習、学外実習中の事故等に備えての保険にも加入している。
- (3)「学校法人城西学園 消防計画」を作成し、消防設備等についても、法定点検を実施。学内に設置している自動販売機は緊急時飲料提供自動販売機であり、非常災害時に対応可能。事務職員が防火・防災管理者の資格を取得し、災害時の対応にあたる。
- (4)教室は午前 10 時から使用が可能。午前中から学習したい学生は校内の空き教室で自由に自習出来る環境を提供している。
- (5)図書室にはインターネット閲覧可能なパソコンが 6 台備わっており、同様に午前 10 時から使用できる。書籍は定期的に見直され、教員がニーズに合わせて選定し購入している。

【課題・改善策】

- ・予期しないリスクに対しての対策ならびに大雨、台風に対しての設備点検。地下に画像機器を設置しているため、清掃・点検には注意が必要。
建物の異常や対策には全員が注意し異変を感じたら、建物・設備担当者へ報告し対応する。
- ・定期的な防災グッズの見直しを行い、必要な備品を揃えていく必要がある。

	評価項目	評価
1	施設・設備は教育上、十分に対応出来るよう整備されているか	3
2	学外の実習やインターンシップについて十分な教育体制が整備されているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	2

基準 7 学生の募集と受け入れ

- (1) 学校ホームページの充実、進学情報サイトの活用により、体験入学、学校説明会の案内を積極的に実施している。入学希望者の問い合わせ窓口を広げるため、ホームページ、メール、電話、FAX、郵便等、各種 メディアを利用してアクセスできる体制を整備し募集活動を行っている。
業者と情報交換を密に行い、業者主催の進路相談ガイダンスや学校訪問に積極的に参加している。
- (2) 入学選考は社会人経験者の受験も多く、AO 入試・推薦入試・一般入試等選考方法に多様性を持たせ、適正に実施している。試験は小論文または筆記と面接により総合的に判断され、可否は入試判定会議にて学則第 16 条に基づき学校長が判断している。
- (3) 学納金は同分野の他校と比べてもあまり差がなく、水準であり、入学手続後、入学を辞退した場合の納入金は入学金を除き返還している
- (4) 募集活動は募集窓口を広げるため、新たに高校進路支援業者と連携し新規開拓を行っている。

【課題・改善策】

- ・学校説明会実施後には参加者アンケートのみならず、教職員、学生にも改善点や良かった点を調査し次回まで各自の課題としているが、次回までに改善が難しい項目に対しての追跡が課題。
対応に時間が必要なケースには、口頭など別途説明していく。

- ・説明会ではホームページ等で公表しきれていない項目も発表するため、今後は情報を統一する必要がある。また、遠方のため参加が難しい人向けにオンラインで開催する方法を検討する必要がある。

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	3
2	教育成果の情報提供は正確に伝えられているか	3
3	入学選考は、構成かつ公平な基準により行われている	3
4	学納金は妥当なものとなっている	3

基準 8 財務

- 1)校舎設立時の借入金はあるが、財務基盤は安定している。
- 2)予算は計画に従って妥当に執行されている。年度予算編成にあたり、学納金収入等を見て中期計画を適宜見直して策定している。
- 3) 学校法人の会計処理を遵守して、監査法人による会計監査を実施し、監事の監査を受け理事会等に報告している。
- 4)財務情報は事務所にて閲覧できるようになっており、ホームページでの公表も予定している

【課題・改善策】

- ・財務情報をホームページで掲載する予定である。
- ・学生数の安定化が収入の安定、予算作成にも影響してくる。学生が勉強に専念しやすい環境を作り国家試験合格者を一人でも多く輩出するため、学校が一丸となって取り組んでいく。

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	2

基準 9 法令等の遵守

- 1) 関係法令及び設置基準等を遵守し、関係省庁の指導のもとに適切に学校運営されており、関係省庁からの通知、通達等の内容を学内で共有し、報告等も適切に対応している。
- 2) 教職員、講師などすべての関係者が個人情報に関する諸規範の遵守を心掛けており、資料請求者、学校説明会・体験入学者等の個人情報は目的以外には一切使用していない。
- 3) 安全面では学内で使用するパソコンに対して情報流出保護システムを導入した。
- 4) 自己点検・自己評価は年に 1 度行われているほか、必要に応じて職員会議にて問題を取り上げている。

【課題・改善策】

- ・個人情報に関する重要性は会議等で共通認識を持っているが、文書化されていないため、作成が必要

	評価項目	評価
1	法令、設置基準を遵守し、適正な運営がされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己点検・自己評価の実施と問題の改善に努めているか	2
4	自己点検・自己評価の結果を公開しているか	1

基準 10 社会貢献・地域貢献

- (1)城西中学・高等学校の文化祭（しいの木祭）実施時、本校も医療関連の公開講座および種々の医療機器の見学・体験実施を通じて地域住民と交流を図っている。例年実施している骨密度測定において、毎年楽しみにしている、という参加者も多い。
- (2)本校に届くボランティア募集の案内は図書室に掲示しているが、夜間校である本校は昼間に働いている学生が多く、社員としてフルタイムで働く学生もいるため、1 週間のスケジュールを見ても活動にあてられる時間自体が取れないのが現状である。

【課題・改善策】

現実的に実施出来るボランティア活動を模索している。

	評価項目	評価
1	学生の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	1
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
3	地域活動に積極的な参加をしているか	1